

# 漁況予報 い わ し

## 第 2 2 4 号

【2021年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概 況 =

#### 【マイワシ】

主要定置網における1月のマイワシ総漁獲量は、0.1 トンで前年（20 トン）及び平年※<sup>1</sup>（7.4 トン）を下回りました。2月は77 トンで前年（24 トン）及び平年（10 トン）を大きく上回りました。

なお、まき網では、1月、2月ともにまとまった水揚げはありませんでした。

魚体は、16–21cm（被鱗体長\*<sup>2</sup>以下同）の2019年生まれの2歳魚が主体でした。

なお、漁業調査指導船「江の島丸」が2月上旬に利島周辺海域でさば資源調査を行った際、昨年につき18–22cm モードの成熟した大羽マイワシを多く混獲し、今年も産卵のために集群していることが伺えました。

#### 【カタクチイワシ】

主要定置網における1月のカタクチイワシ総漁獲量は0.5 トンで、不漁であった前年（3.1 トン）及び平年（13 トン）を下回りました。一方、2月は80 トンとまとまった漁獲があり、前年（1.7 トン）及び平年（61 トン）を上回りました。

なお、まき網では、餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、8–11cm の1、2歳魚が主体となりました。

#### 【シラス】

コロナ感染症予防の観点から、例年シラス船曳網漁業連絡協議会の協力を得て実施してきましたシラスの禁漁期間中（1月1日～3月11日）の試験操業を中止しました。そのため、各海域の魚探反応や魚種に関する情報は得ていませんが、近年の春漁の主体となるマシラスを生み出すマイワシ親魚は、伊豆諸島海域から一部相模湾内へも分布を広げており、その成熟度の情報から見ても、3～4月のシラス漁の主体となるものと予想されます。

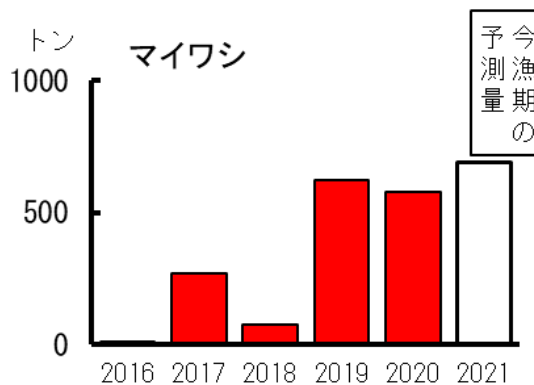
水産技術センターでは、特に相模湾内での流況の変化に着目し、シラス漁場の形成に関する情報を収集・解析して、随時提供していきたいと思っております。

# = 予 報 =

## 【マイワシ】

今漁期は、引続き 2019 年生まれの中羽が主体となるでしょう。4 月に入ってからは、ヒラゴの早期発生群の漁獲があるでしょう。

今漁期の漁獲量は、暖水波及等の海況条件により大きく左右されますが、前年をやや上回る約 692 トンと予測されます。

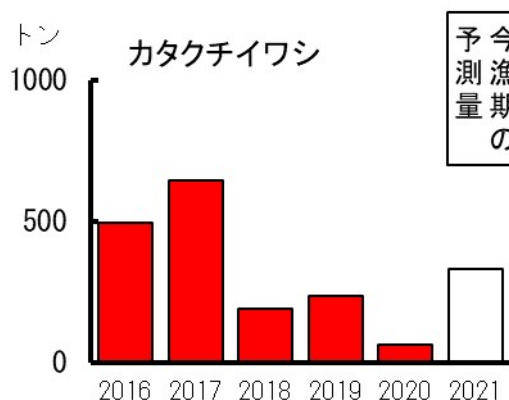


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

## 【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き 2019, 2020 年生まれの成魚～小型成魚 (9～12cm) が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1 - 2 月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を上回る約 333 トンと予測されます。

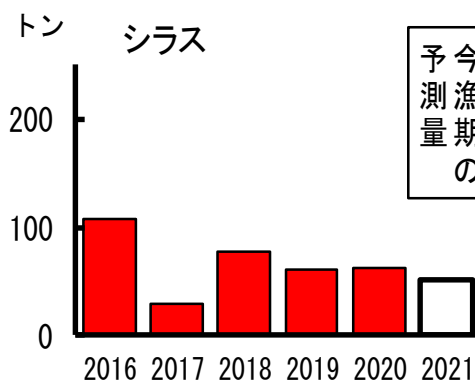


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

## 【シラス】

今漁期は、2 月以降生まれのマシラス主体の漁模様となり、漁期後半はカタクチシラスが増えてくるでしょう。

相模湾内の水温は 15～17℃台とやや高めですが、シラスの来遊・滞留には良い環境にあります。今漁期の漁獲量は、親魚との関係から前年をやや下回る約 52 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター栽培推進部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314